

科目名	原価計算論 I Cost Accounting I						
科目担当者	森田 英二 MORITA Eiji						
単位数	2	配当年次	2年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科 [区分]	経営学部・経営学科 [専門教育科目 専門科目]					ディプロマポリシーとの関連	(2)(4)
授業の概要	<p>まず、製品における「原価」とは、どのような流れで形成されるのかということ把握する。その上で、工業簿記と原価計算における各計算体系を解説していく。工業簿記と原価計算は製造業に関心のある者にとっては必要な知識であり、企業の会計部門以外でも原価や原価計算の知識が必要とされることがある。また、原価の仕組みを知ることは身近にある製品原価を推定できるようになる。</p> <p>講義の内容については、日商簿記検定2級工業簿記の範囲とレベルを設定しており、商業簿記との相違点にも留意しながら学習を進めてほしい。</p>						
授業の到達目標	<p>講義を通して以下の目標を達成する。</p> <p>①仕訳と勘定記入、財務諸表の作成により工業簿記の全体像を理解する。 ②原価計算における計算体系を学習して、原価の形成過程を理解する。 ③身近にある製品原価を推定できる。</p>						
授業計画・内容	1	ガイダンス/工業簿記と原価計算					
	2	工業簿記のアウトライン					
	3	原価計算のアウトライン、総合原価計算の基本					
	4	単純総合原価計算					
	5	組別総合原価計算					
	6	等級別総合原価計算					
	7	工程別原価計算					
	8	材料の追加投入					
	9	仕損・減損の処理					
	10	工業簿記の勘定連絡					
	11	損益計算書と貸借対照表					
	12	製造原価報告書					
	13	標準原価計算の基本					
	14	直接材料費・直接労務費の差異分析					
	15	まとめ					
授業外学修 (事前学修)	毎回、テキストの学習範囲を熟読し、必要に応じて商業簿記の基礎の復習をしておく（毎週2時間程度）。						
授業外学修 (事後学修)	毎回、解答した問題演習の復習を行い、苦手な分野は反復練習すること（毎週2時間程度）。						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	定期試験 問題演習の進捗度				60% 40%	①、②、③ ①、②	
成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合						
教科書	桑原知之『日商簿記2級とおるテキスト 工業簿記』ネットスクール出版						
参考文献	なし						
その他	<望ましい受講生> 受講生は商業簿記の基礎（日商簿記3級程度）を習得しておくこと。 <あらかじめ受講してほしい科目> 「簿記論 I・II」または「上級簿記 A・B」「会計学 I・II」 <併行して受講してほしい科目> 「管理会計論 A・B」						